

25周年プロジェクト チャリティイベント、グッズ収益の活用方法に関して

本プロジェクトで企画しているチャリティイベント並びにグッズの収益は、経費を除いて全て CFF ジャパンの活動費に充てさせていただきます。

たとえば以下の通りです。

- ・教育分野や事務所近辺地域の子どもや青年に関する事業の費用
- ・青年活動の費用
- ・フィリピン、マレーシア、ミャンマーでの緊急支援
(現地法人からの要請、地域の子どもや人々の生活支援など)
- ・団体運営のための管理費

新型コロナウイルスの影響により、基幹事業であるワークキャンプ/スタディツアーが開催できずに1年以上が経過しました。そのような中今回のプロジェクトでの収益を全て CFF ジャパンの活動費とすることには、大きく2つの理由があります。

1) 昨年度の寄付プロジェクトを経て、現地施設は「自立」に向け努力をしている

CFFに関わるみなさまの中には、現地(海外)の施設運営の様子が気になる方も多くいらっしゃるかと思います。昨年度には、各国現地法人、特に児童養護施設「子どもの家」の子もたちの生活を守るために大規模な寄付プロジェクトを行いました。みなさまからのあたたかなご支援により、1年間の施設運営費・団体運営費を確保することができました。各国現地法人からは、日本のみなさまが現地のことを第一に考え、多くの寄付が集まったことに心から感謝しているという声が届いています。同時に、CFF ジャパンもキャンプツアーができず厳しい財政状況であることも理解しており、昨年度のようなジャパンからの送金に頼るのではなく、自分たちでもしっかり資金繰りを考えて、子どもたちの生活を守っていこうという気運が生まれています。

CFFは長年、相互に依存ではなく協働という対等な立場での関係性を築いていくことに取り組んできましたが、昨年度の寄付プロジェクトがその関係性をさらに成熟したものにしてくれたと確信しています。

また、今後はCFF ジャパンとしても各国現地施設以外の緊急支援が必要なところへも活動の輪を広げていきたいと考えています。みなさまもご存知の通り、ミャンマーの国情は困難を極めており、支援を必要としている人たちが多くいるにも関わらず、支援の手を伸ばせない状況にあります。またキャンプやツアーで毎回訪れるマレーシアの不法移民集落も新型コロナウイルスの影響により、これまで以上に生活困窮者で溢れています。これまでのように「子どもの家」の子もたちだけの支援ではなく、その子どもたちが今後担う社会やコミュニティーに対しても支援の輪を広げ

ていく、そのための活動資金としていきたいと考えています。なお、現地法人施設からの緊急要請があれば、それにも応えていく予定です。

2) CFF ジャパンの活動を広げて、子どもや青年の未来に貢献するため

CFF ジャパンとして何よりも大切にしているのは厳しい立場に置かれた子どもたちへの支援であり、子どもたちの生活が守られることを第一に昨年度も寄付プロジェクトを行いました。しかしながら同時に、他人ごとを自分ごとのように捉え、社会に対して主体性を持ってアクションするための青年たちの活動の場を作っているのは CFF ジャパンであり、これも CFF にとって欠かせない活動の一部です。これまでは、キャンプやツアーを実施する中で、子どもと青年の育ち合いの場をつくるとともに、活動資金を確保してきましたが、それができない現在、CFF ジャパン自身の活動として、日本の青年や事務所近辺の親子などのために、教育分野や地域での活動を立ち上げて実践しつつあります。持続可能的に活動していくための道を現在模索中ではありますが、そのための活動資金として活用させていただきたいと考えています。

本プロジェクトを通して、CFF がこれまで生み出してきた価値をみなさまと再確認するとともに、次の 25 年にも繋がる気運を作る機会となれば幸いです。

ご理解並びに参画のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2021 年 8 月 21 日

CFF25 周年プロジェクトチーム
CFF ジャパン事務局